View metadata, citation and similar papers at core.ac.uk
brought to you by CORE
provided by Kwansei Gakuin University Repository

2015年
6月22日
月曜日

「個人の効用と社会」

新海　哲哉　教授（理論経済学）

技術革新と経済の発展は、われわれに便利でより豊かな生活の享受を可能にしてきた。例えば、日々利用している身近なモノでわれわれに多くの便益を与えているモノとして一つ例を挙げれば、スマートフォンがある。スマートフォンを使えば、電車やバスなど交通機関を利用中や街を散歩していても、写真、動画も撮れるし、LINEなどのアプリを使えば、無料通話やリアルタイムの会話も楽しめる。また、ネットからダウンロードした音楽も聴けるし、電子書籍だって読める。これらの楽しみは、われわれスマホの利用者の効用や歓びを増加させる。

その一方で、個人の楽しみや歓びを追及するために、通勤中の電車の乗降ドアの近くでスマホのゲームのパズドラに夢中な人を見かける。こういう人の中には、電車が駅に停車し、降車しようとする乗客の邪魔になっても、スマホから目を離さないマナーの悪い人も多い。さらには電車から降りて階段を使って改札口に移動する間も平然とゲームを続け、或いはメールやラインを入力し続け、一歩間違えば他人に怪我をさせかねない迷惑をかけている人を見かけることさえある。

トヨタがエネルギー消費を抑えかつ排気ガスをも減らして、地球環境と地球温暖化抑制を目指し、技術開発して供給しているハイブリッド車プリウスはそれに乗る人々の効用を高め、社会にもよい影響を与えている。しかし、プリウスの特徴かつ長所である、所有者・運転者の居住性や乗り心地を高めるエンジン音の減少も、視覚、聴覚を頼りに安全な移動を試みる歩行者や音を頼りに聴覚を頼りに移動する視覚障がい者には、負の影響を与えているのである。

このように、技術革新とわれわれ購入者・利用者の歓びや利便性、効用を高める製品やサービスも、利用者がその利用する場所やとき（時）、環境に配慮することを忘れてしまうと、意図せずして他の人々や社会に害を与えてしまうことをわれわれは忘れてはならないのである。

これまで、企業は技術革新を重ね、人々の個人の効用と利便性を高める製品やサービスの開発と生産供給をすることにより、雇用機会を増やし、富と価値を生み出しわれわれ消費者の効用を高め、社会経済の発展に寄与してきた。しかし、企業も新たな製品やサービスの開発にあたっては、その製品やサービスの購入者の効用を高めることと生産コストだけに目を向けるのではなく、その利用の仕方によっては購入者以外の他人や社会に害を与える可能性も考慮すべきである。また、その製品やサービスを購入し、利用するわれわれもその利用の場所やとき（時）、環境を考えて利用することが経済社会の発展に寄与することになることを認識することが大切である。■